（廿六日夕刊）

大祭第一日曜
休刊　第三日曜
定價（壹枚二錢、壹ケ月五十錢、郵稅十錢
廣告料二行辛銭指定廿錢增
發行兼編輯印刷人　蓮沼龍輔
發行所　福島縣平町田町拾六番地五六四四　磐城新聞社

郵便貯金の激增は地方の爲に不利

銀行に置て資金を圓滑に

某經濟通の談

縣下に休業銀行の續出以來郵便貯金が激增して昭和三年度は一千五百萬圓の增加を示し他府縣に比して著しい增加率を示して平局の如き貯金の激增を見て更に益々增加の傾向がある右に就て平町の某經濟通は語る

「郵便貯金の增加は國家的に見れば誠に結構な事柄であるがこれは地方の資金が中央に吸收さるゝ事になるので地方經濟から見れば喜ばしい現象ではない地方の資金は地方にあつて運轉してゐる樣でないと地方金融は圓滑に行かない、政府が今回低利資金を借出しなは小額ながらもこの中央に集中した資金の地方還元を計つたものである所が折角低利資金を借り入れて又これが郵便局に預けられるといふ事になると誠に滑稽な事になるだらう早く銀行の信用が恢復して地方の金は地方に置く樣にしたいものだ

日曜に續く紀元節

舊正月の行事

火打合ひも好都合に

天下泰平の石城

石城地方の風習として舊の正月は新の正月のそれに比し各方面を通じてより多くの交渉を有する事屢報の如くであるが試みに今年の舊正月元旦は二月の十日で恰もよし開放されたる日曜日に相當するので新とはちがつて

拜賀式に

いらず朝から嬉戯する事ができる學校通ひの子女の喜びはいはずもがな官衙學校銀行會社等關係の大供まで朝からそれ〳〵このむ方法によつて天下泰平の御代の春を壽ぐ事が出來るわけ、次ぎにこれ亦子供らが何時も前から樂しみ待つ二日の「買初め」が翌十一日紀元節の旗日と來てゐるから二日續けての休みに舊正月分は充分に味はへるといふもの、盛り場である舊十日の湯本の「こんぴら」祭りは十九日の火曜日になつてゐるので一寸都合惡いが四倉名物の火打合ひの

最終日で

あり同時に各村々の鳥小屋常夜である十四日から二十三日の土曜日になつゐるので翌日なる日の日曜日をあて込んで深更まで遊び興する事が出來る勘定。大体において萬事都合にいつてゐた今年の舊正月ではある

讀者欄

郵便法の智識

一局員　投

昨今卒業期と入學期とを目前に控た中等學校生徒が現用書類求の書面を開き封となして第二種郵便物として發送するものが日に〳〵多くなつたと郵便局では發表してゐるが中等學校生徒に郵便法に關する智識の不足してゐることを明かに物語つてゐるものだ。

所が、これは中等學校生徒ばかりでなく小學校教員の中にさへ往々にして見出し得る事實でそれを平氣で開き封となし、二錢切手を貼用して送つて來る小學教員がある。

だから、昨今上級學校への入學志願者たる中等學校生徒中に。第一種郵便物と第二種郵便物との差違を知らぬ者があつたからとてさまで驚くにはあたらぬわけであるが、しかしかうした事實の明かに現今の義務教育なりに少かつぬ缺陷をもつてゐることを暴露してゐるものであるといつてよからう。

近頃の小學校生徒は雜誌に投書したりするので、自然開き封には二錢の切手を貼、密封の書狀には三錢切手を貼るものだといふ事位は知つてゐるが、それは學校で教へられることでないから、どうかすると開き封にさへすれば二錢でよいといふ中學主の如きものに發達するのである。

出來ることなら日常生活に密接な關係ある郵便法の如きもの（郵便法のみに限らないが）はこれを小學校なり中等學校なりで先生から生徒に教へておくのが本當ではなからうか學校では地理や理科や算術や修身さへ教へて居ればそれでよいといふような在米の考へは聊か誤つてゐはせぬか、要するにものゝ生活に即した教育が必要であることが立證されてゐる譯である。

村稅滯納處分に

先生もお手傳へ

三ケ月も給料未拂ひ

石城山村の窮狀

石城郡三坂、川前村方面山〳〵は昨年の天候不順の災害を受け稻作の如きは全く皆無に等しく、これに次いで慕實收納の成績も極度に劣惡であつたゝめ各農家は殆ど息つく間もなくいづれも

善後策を

講じて居るが全縣下を襲ふて居る不景氣のため經濟界は大逼迫と見てゐるので適當な對策も發見されず四苦八苦の狀態にあるため村稅の如きは殆んど納まらずこれがため同村方面は小學校教員の給料の如きは既に二、三箇月間も支拂ひ出來ず事實上教員連は生活上の大恐慌を來してゐるので役場當局では吏員を

督勵して

滯納處分を行つて居るが更に成績があがらず教員連の生活はますます〳〵大脅威を受けて來たと常盤の差押へを手傳ひ漸く糊口を凌いで居ると云ふ慘狀を呈して居るが村當局でも滯納整理には全く手の付けやうがなく弱り切つて居る有樣であるがこの狀態が長く續くに於ては由々しき社會問題となるとして非常に注目を惹いて居る

平銀出張所

整理と名義改稱期

常盤銀行と合併した平銀行が常盤銀行支店となるのは一月三十一日迄株券提供期間なので二月中旬頃になるものと見られてゐるが、平銀行では合併と同時に石城郡内郷村、双葉郡富岡町、同新山町の三出張所が廢止に決定し支店名義と變更と同時に閉塞する事になつたので目下それ〳〵三出張所の整理を急ぎつゝあり、富岡町出張所は二十四日迄に整理が出來、綴出張所も二三日中に整理が出來る由である、新山出張所は預金者との關係から整理の幾分遲れてゐるが之亦本月末迄には整理が出來る由である

養蠶同業

役員會と議題

石城養蠶同業組合では來る二月四日午前十時から組合役員會を開催翌五日午前十時から舊石城郡役所に通常總會を開く事を決定したが總會の議題は

△二年度の決算報告△四年度の豫算（約六千圓）△組長一名、副組長二名、評議員三名の改選

販賣利用役員會

貸倒承認と利益金處分

役員改選も執行

石城販賣利用組合では今廿六日午前十時から舊石城郡役所内に役員會を開催來年度の新規事業に關する協議をなしたが引續いて午後一時から問所に於いて春季通常總代會を開催したが總代會當日の議案は次の如くである

△三年度財產目錄、貸借對照表、損益計算書、業報告書、剩餘金處分案承認の件△四年度に於いて借入得べき最高金額決定の件△餘祐金預入銀行決定の件△木戸村を區域に入れ理事五名を七名と增員する定款變更の件△積立金を事業資金に運用の件△組合員施設費の役員に對する慰勞金は毎年剩餘金の一割以内と定め組合長の專決執行に關する件△產業組合中央金庫出資增口取得の件△組合役員の改選

夏井川工事

請負駄目

部落民大弱り

石城郡夏井村荒田目字山崎地内の夏井川護岸工事は縣が町村工事に指定して總工費五千四百五十圓を以て本月上旬から着工の豫定であつたところこれが請負者の荒田目區で種々の關係から土木業者福田某に下請負をなさしめることにこれが諒解を平土木監督所に求めたところ同所では町村工事に關する條例に違反するから拒絕したゝめ同區では非常に狼狽し目下善後策を講じゐるが前記條例によると同區以外のものが工事を請負ふことは絕對に禁止されてゐるので同區では五千餘圓の工事を目の前に控へ處置に窮してゐる

吉の凶

明の日

舊十二月
暦七十日

新一月
暦七十日

▲一白　順調には向へども相談事は不調と知るべし▲二黑　一家能く氣揃ひて圓満裏に仕事の運ぶ日▲三碧　内外協調を保ち健全に進め得てやれよ、もう五十の餘になる年なら先の長いこともなんだ▲四綠　苦を通り拔けてたひ〳〵言運に向ふ日たり▲五黃　緩急ねにぢやねねか▲六白　定業以外の事業にはなるべく手控へを要す▲七赤　川に臨み舟橋なき如く進路の塞がり勝▲八白　氣を締てはげめば物事通達すべき吉日たり▲九紫　迷ふ事あらば長者の差圖によるが安全なり

幕末狂怒記

（144）

渡邊　默禪作
宮野　歌春畵

講談

お君はその顏を星明りに懷かしそうに下から覗いて

「そう、軍人になつたのねえらい出世ね」

「ハハ……出世をして戰爭で死んぢや世話はねねや」

「いゝや、死なない樣に私が祈つてるわ」

「アハ、、御親切樣に」

「なあ、まゝになるなら御餞別を上げたいんだけれどもこの通り情けない身の上だからそれも——梅さん察してた呉れ」と泣く

「粹じゝぢやないか、新内語りとは巧くたちぶれかもんだ」

と梅はひやかす樣なことを云つてぢつと顏を見詰めながら

「た君昔は昔、今は今だぞ操と云ふことを忘れるなッ」

と突放なしてとつとと駈け出した、忽ちにして其の姿が見えなくなつた、お君は見送る眼も涙に曇つて堪え得ずその場に膝をくずし忍音に泣くのであつた、と材木の影から太郎が、物をも言はずその横顏をビシヤリと打つた。

はねゝんだけれどもいろ〳〵事情があつてね、そして父さんに面目ないやら、近所の人等にきまりがわるいやらで遂氣になりながらひよつくりとぴび出した勘太郎が、物をも言はずそのたよりをしなかつたんで、だけど今の話しを聞いて見れば父さんが可哀想でならねねから是非詫をして戻る樣にしますわ」

「む、そうつて呉れそれが私の願ひだ」

と梅は星を仰いで

「ぢや、たつしやに暮しなさい」

と立揚る、た君は慌てゝその羽織の裾を掴んで

「梅さん、に前さん何處にゐるの」

「俺か！」と梅は笑つて

「どこと云ふ目的はない明日は甲州へ立つんだが何れ落ち着く先は甲州のお城だ」

都々逸

「洋服は着よく丈夫で一般むきは品質本位の正札堂」

甲乙二社員が或る會社のテーブルを圍んで

甲「いや君此の頃の不景氣には困つたね……」

乙「ウーン全く困るね、銀行は閉門だし」

甲「時に君馬鹿に良い洋服をおごつたじやないか、何處で新調したんだね色も素敵だなあ、生地も」

乙「ウーンこれか、それ君も知つてゐる正札堂さ」

甲「あアー停車場通りの」

乙「そーだ兎に角正札堂は平町で一番評判わいひからね……」

甲「全くだよ……評判のよひ事驚くね、どうしでだらう」

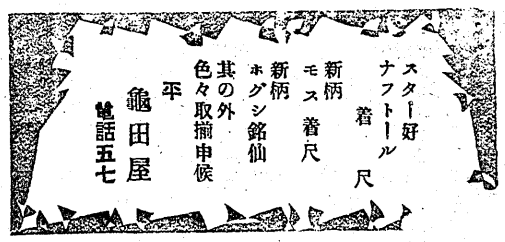
乙「それは君都々逸にも「洋服は品質本位の正札堂が着よく丈夫で誰も好く」とある樣に品が良く價が安いからだよ」

甲「成ち程君は素敵な都々逸を知つてゐるね」

乙「マアー洋服は正札堂に限るよ、アハハ、、、、、

甲「アハハ、、、、、

正札堂



食用鳩（カルホワイトキング　シルバイトキング）
ブリユウセキセイ　オカメインコ
アカボタンインコ　カルカヤインコ
ダルマインコ　小鳥
一紅文鳥　錦花鳥
白鳥　白十姉妹
脊ノコリ　小斑
平町田町本通り
ペニヤ小鳥店

醸造元
清世界
清水屋
石城小名濱町
銘酒
各炭鑛御用達
小野晋平
電話六番

内臟外科　骨關節外科　專門　藤本順
整形外科　產婦人科　院長　木村寅次郎
平町新川町
外科　婦人科　木村醫院
電話一六四番

内科、小兒科　花柳病科　入院應需
藤沼醫院
平町紺屋町
電話平局五〇七番

優秀なる最新型腕卷時計
◎クローム側　白金代用側
十型　十石入　アンクル　七圓五十錢
十型十五石入上アンクル　拾壹圓
九型十石入上アンクル　九圓五十錢
九型十五石入上アンクル　拾三圓
八型十五石入　アンクル　拾貳圓
八形十五石極上アンクル　拾五圓
◎十八金側
十型　十石入上アンクル　拾貳圓五十錢
十型十五石入上アンクル　拾八圓五十錢
九型十五石入上アンクル　拾五圓
八型十五石入上ヤンクル　拾七圓
〔金質保証〕
平町五丁目〔釜屋商店前〕
鐵道省御用　金光堂時計院
電話七三六番

電燈より接續してすぐ寫る
家庭活動寫眞
パテーベビー活動寫眞機
映寫器　八〇、〇〇〇
撮影器　六五、〇〇〇
フヒルム　一本　二、〇〇〇　二、五〇
生フヒルム　一本　一、〇〇〇
市内はお伺ひして御覽に供します
御申越次第カタローク進呈
平町二丁目
パテーベビー社代理店　西村屋藥舗
長電話三番

貸地廣告
古鍛冶拾番地（縣社下天理教會東材木店跡）
病院商店工場並ニ高級住宅地トシテ最適地
貳百五拾坪
右極安値永久ニ御貸致マス（分割モ可）
御希望ノ方ハ電話四四又御來談下サイ借地人本位ニ御相談シマス
平町古鍛冶拾番地
櫻山
阿康葉店……電話四四番

父を尋ねて遙々百里の旅

たどへ三年が五年かゝろうども
此の儘死んでも歸られぬ

▽—今樣巡禮涙の物語り

父を尋ねて遙々〜と、今樣巡禮の十七の小娘が寒月冴ゆる二十五日の夜八時平署に於て奇しくも涙なくては聞けぬ哀れな物語りがある

× ×

この物語りのヒイロンとも言ふべき山形縣西村山郡左澤村佐藤トメヨ（二七假名）と云ふ花恥ふ乙女であるが彼女の父佐平郎（五七）は前村でも相當信用あり商賈も廣く祐福に暮してゐたが業の失敗から全財産をホロ〜にその日の生活にも差支ひあまた負債に首も廻らず五人の子供と妻を殘してひそかに家を飛び出したのは七年前の秋であ

× ×

風のたよりに聞けば父は石城の炭坑に働いてゐる事を聞いた娘トメヨは現在家を尋ね會ふ夢も出來るでの困苦を救んとはる〜父を尋ねんものと僅かの路用積が上らず逐日大激增を示し巡禮の樣に目的のをしてゐるので猪狩署長は廿四日午後七時から管内の自動車營業者運轉手を召集最重な注告を發する處あつたが今後此の注告に對し學故に保護することゝなつたが頻發せしむるが如き學があつた場合は營業及就業停止等最重な處分に附する筈であるが昨年中最後の交通特別執行を行つた十二月廿四、五の兩日間發見された學外二十五名である

石城郡及多賀郡一部在住の帝大出身より成る學士會は廿六日午後六時より末廣に於て開催するが出席者は笹生（法）大貫（工）當番幹

今夜末廣で學士の集ひ

出席者約三十名

右の學情に泣き聞かされた係官は非常に同情し旅費を與へて國元に歸る樣諭した

× ×

眞實の父の在所に來たものをどうして此の儘歸られませう、たとい二年が三年かゝろうとも草の根分ても父を尋ね出さぬうちは死んでも歸りません……どうぞ御慈悲に國へは此の儘歸さないで下さいゞ油氣の切れ掛り毛もいた〜しく兩手を合せて頼むいぢらしさに居茲ぶ警官連も涙を絞つた、無情な父と娘は果しなく尋ね會ふ夢も出來るでの困苦を救んとはる〜父ろうか？

交通事故の頻發に猪狩署長の覺悟

今後若し事故を起せば斷然と營業停止

石城郡地方は近年異狀な交通機關の發達に伴つて各種の交通事故が激增し昨年中平警管内だけでも一百件餘二件以上に達し平署では此事故を徹底的に掃蕩すべく頻々交通事故防止の特別執行を爲して來たが更に今日に至つたものである

磐東銀行總會

年五分配當決議

石城郡植田町磐東銀行第六回定期株主總會は二十五日午後九時から同行内に開催出席委任狀を合せて五

植田水力電氣株式會社第十八期定時株主總會は昨二十五日午前九時半磐東銀行總會後引續き同社内に開催したが出席株主委任狀を合せ二百二十一名この株數五萬九千三百二十一株で社長金成通氏座席に着き

今期中は前期より引續き經濟界不況の裡に終始したるに拘らず十月、十一月の二ケ月に亘り社員の總動員を行ひ增燈、增燭

植電今期の成績

きのう總會で八分を配當

金成社長に功勞金

の勸誘をなしたる結果今や當社の配電區域を通じ一萬二千三百十二燈を算するに至り些か株主各位の期待に庶幾からんとするものあつたが當社の株式は先年全國的に行はれたる金融界の恐慌當時日本銀行にたいしてさへ尚十一圓八十三錢の金融力を認めた程各方面から歡迎されたものが昨年中縣下に捲き起つた財界動亂以來は一轉して幾分遮下したるも威なき能はず株主各位に對し衷心申譯がない結果に立ち至つた併し乍ら自下申請中なる第二發電所の電力を今後適當に消化し得るに至らば本社益の利益は現在より一躍八萬圓乃至十一萬圓の增加を見る事確實でこの點各位の御諒承を願ひたいこれを要するに當社株式の融通力を阻害されたるは會社内部の缺陷に因るに非して全國的乃至縣下に行はれたる經濟界の恐慌に殃されたものに外ならない株主各位幸ひにこの點を明察あつて大に自重を

十六名この株數六千七百九十八株で專務取締役金成通氏座長に着き

第一號議案、今期營業報告書、貸借對照表、損益計算書の承認及利益金處分の決議を求むる件

第二號議案取締役三名任期滿了に付改選の件

（年五分）▲後期繰越金七六五〇、三三〇

十萬圓を中心に

財産取戻し訴訟

槇、門傳氏代理人で成行き注目さる

石城郡赤井、下小川、平窪、草野村大字泉崎佐藤榮は平月四日午前十時から平支部は金成通、江尻博孝、金成金三の諸氏再選重任に決し

第一回の口頭辯論は家る二十時から開始されるが判廷に於て原告榮が長男であるなら分家された理由には何等かの手段があり殊に一餘萬圓の財産を中心としてのお家騒動は當地方としては珍らしい件で進展は可成注目されてゐる

隱れたる恩人、小川江の歡順僧

記念碑も建設して盛大な供養法會

石城郡植田町磐東銀行第六回定期株主總會は二十五日午後九時から同行内に開催出席委任狀を合せて五

石城郡地方は近年異狀な交通機關の發達に伴つて各種の交通事故が激增し昨年中平警管内だけでも一百件餘二件以上に達し平署では此事故を徹底的に掃蕩すべく頻々交通事故防止の特別執行を爲して來たが更に今日に至つたものである

原吾榮は元平町長の榮職にあつた富豪佐藤文拙氏の長男として出生したが法律上出來得べくもない長男が何時の間にか佐藤家から分家され榮の異母姉婿に當る前記被告末松が文拙氏の財産十餘萬圓と共に家督を相續し

槇、門傳の兩辯護士を代理とし義兄に當る同村有數の豪農たる佐藤末松を相手取り分家無効相續回復の訴訟を支部に提起したが訴訟の内容は

第一回の口頭辯論は家る二十時から開始されるが判廷に於て原告榮が長男であるなら分家された理由には何等かの手段があり殊に一餘萬圓の財産を中心としてのお家騒動は當地方としては珍らしい件で進展は可成注目されてゐる

磐東銀行總會

年五分配當決議

石城郡植田町磐東銀行第六回定期株主總會は二十五日午後九時から同行内に開催出席委任狀を合せて五

石城郡赤井、下小川、平窪、草野、大浦、大野、四倉地内を貫流する小川江筋は耕田三千餘町歩灌漑し幾多農民はその恩澤に浴してゐるが江筋開鑿の元祖である澤村勘兵衛爲氏の業績に對しかくれたる援助者として傳へられる石城郡草野村泉崎光明寺住職歡順氏と云ふ僧侶の功を此のまま葬るとは忍びないとて之を永遠に記念すべく小川江筋組合

白銀青年團

入營兵一送迎旗

好間村小田吉次氏の個人經營なる隅田川炭礦坑内に昨廿五日正午頃突如出水し瞬く間に全坑道に滿水したので直ちに會社は坑内要所を密閉從業員の救助に努めた結果一人の死傷者もなく全員無事避難し得たが出水量は非常なもので作業は全部中止の止むなきに至つたが財力の豊富なる炭礦經營に才能を有する小田吉次氏の事であるから直ちに排水作業を開始する筈で回復は案外速やからうと觀られてゐるが從業員全部は廿六日から元山礦に轉せしめた原因に就いては直ちに調査を開始し一が舊坑からの出水である事に疑ひないものと觀られてゐる

隅田川坑に出水

從業員は全部無事

排水復活も有望

では昨二十五日の同組合總會に提案し各組員から五百圓の寄附を募り光明寺境内に記念碑を建設する筈本

五日午後七時から加藤副團長宅に臨時幹部會を開催し生活改善の第一方法として虚禮の廢止をする事となり從來同團では入營兵除隊兵

磐城新報

改題

いはき新報と

中町白銀町高木喬氏の主宰する『磐城新報』は語呂並に字体に於て本社の『磐城新聞』とどこく似してゐるため高木氏の『磐城新報』は次號より『いはき新報』と改題する

名人を集めて民謡大會

河北支局主催

河北新報　支局主催の大日本民謡演奏大會は來る卅一の兩日午後六時より平明舞館に於て開催する事となつたが主なる出演者は仙臺放送局日本民謡研究會長後藤桃水氏を初め同會の幹部並に福島市の名物男熊田三郎、縣下代表民謡家阿部

石城文壇破壞せよ！（上）

—丘、松本兩君に與ふ—

東天涯

磐城新聞は最近珍らしく活氣のある記事を載せた。丘番緒「石城文壇を笑ふ」及び此に對する松本純一「愚子よ悲しむ勿れ」これである。この二論說は實は甚だ稚拙極まるものであつたに係はらず、その取扱へる題材に於て全讀者を喜ばしめた事は疑ひの無い事實である。

問題はかやうな所に觀點が置かれ、かやうにして初められた「愚子」丘は云ふ

石城文壇を見ると、雜誌「詩南車」と「無軌道」がある。詩南車は最近その車体を小ブルジョア色に塗りかへた。無軌道は初號二號丘の變へた。

號を重ねるに從つて自ら崩壞し初め今や無氣力なルンペンプロレタリアに修行しつゝある（この二つを以て石城文壇を誤解してゐる石城文壇とはさうしたものでない。無軌道をもつて理解せよ。誤解するなだアに過ぎぬ。彼の見解は發ひ乍ら「反階級的」行動力に墮してゐるが、然し愚子よ悲しむ勿れ」と。同論文は徹頭徹尾無軌道の辯解に陷入した。從つて丘の持つ誤りは松本の誤りだ。

かくて松本純一が登場そして遂にムキになつて辯解したかと思ふと急に丘云ふ所を承認して無氣力を云ふ「丘は石城文壇とは甚だ冗談を以て云ふ」と云ふ事である。彼も亦極度の不熱心者である。詩南車は最近その車身亦一ケの同情家小ブルジョアに過ぎぬ。

松本は盛んにシャクリ上げ「詩南車」と「無軌道」が「愚子よ悲しむ勿れ」と。これが丘の見方であるだが、この見方は正しくない。階級的な見方ではない。成程丘の云ふ通り以上の樣な學更によつて文藝的兩集合体は誤つた方向へ進みつゝあるこれはよい。然し重大な學はその誤謬を紹介し解釋する學ではなくて「どうしたらその誤りを打破する學ができるか」と云ふ學である。

丘の見方は此點でゼロである。丘の論說を發展させばこうだ「アハヽヽ、（丘は世笑して止まない）と」

高見の見物をしやう。君等は論說が石城の被壓迫大衆へ爲に無軌道と石城文壇の關係を忘れて了つた。又無軌道と大衆の階級的文藝運動とは何であるか忘れた。

彼はあまりの悲しさの裏切でなくて何だ。丘自身亦一ケの同情家小ブルジョアに過ぎぬ。

かくて松本純一が登場そして遂にムキになつて辯解したかと思ふと急に丘云ふ所を承認して無氣力を云ふ「丘は石城文壇とはさうしたものでない。無軌道をもつて理解せよ。誤解するなだアに過ぎぬ。彼の見解は發ひ乍ら「反階級的」行動力に墮してゐるが、然し愚子よ悲しむ勿れ」と。同論文は徹頭徹尾無軌道の辯解に陷入した。從つて丘の持つ誤りは松本の誤りだ。

松本は盛んにシャクリ上げ「詩南車」と「無軌道」が「愚子よ悲しむ勿れ」と。これが丘の見方であるだが、この見方は正しくない。階級的な見方ではない。成程丘の云ふ通り以上の樣な學更によつて文藝的兩集合体は誤つた方向へ進みつゝあるこれはよい。然し重大な學はその誤謬を紹介し解釋する學ではなくて「どうしたらその誤りを打破する學ができるか」と云ふ學である。

丘の見方は此點でゼロである。丘の論說を發展させばこうだ「アハヽヽ、（丘は世笑して止まない）と」

高見の見物をしやう。君等は論說が石城の被壓迫大衆へ爲に無軌道と石城文壇の關係を忘れて了つた。又無軌道と大衆の階級的文藝運動とは何であるか忘れた。

彼はあまりの悲しさの裏切でなくて何だ。丘自身亦一ケの同情家小ブルジョアに過ぎぬ。

かくて松本純一が登場そして遂にムキになつて辯解したかと思ふと急に丘云ふ所を承認して無氣力を云ふ「丘は石城文壇とはさうしたものでない。無軌道をもつて理解せよ。誤解するなだアに過ぎぬ。彼の見解は發ひ乍ら「反階級的」行動力に墮してゐるが、然し愚子よ悲しむ勿れ」と。同論文は徹頭徹尾無軌道の辯解に陷入した。從つて丘の持つ誤りは松本の誤りだ。

階級意識に展せしめたらうか。百度も千度も否である。想へ、眞の文藝運動とは文藝行動を以て無産大衆を一個の上今後一層社運の隆昌を致す樣指導鞭撻あられん事を切望する。

久の濱電話

二十一日より開通

双葉郡久之濱町の電話架設工事は本月上旬着手去る二十日竣工し二十一日より通話を開設したが特設電話口數三十四、來る二十六日嘉大なる開設祝賀式を擧行する

四銀の總會

損失は後期繰越

石城郡四倉銀行では財界の恐慌に際してその影響を受け支拂猶豫を昨年十一月以降から繼續してゐるが同行では此の程株主總會を開いて三年度下半期營業報告について株主の承認を求めた今期の損失金は金一萬四千二百五十九圓二十七錢で、これは後期に繰越す事になつ

一日一人

槇木恒氏

山椒は小粒にしてピリリと辛い、その山椒でも、まがよべく小柄にして嚴肃味を溢れ出してゐる辯護士の槇木さんは家に歸れば善良な背ノ君であり父である。お職掌柄料亭への出入も繁き代も此の人在や辯護士中の粹人で酒もやれば唄もよろし、殊に羽織を逆に履へて踊る關の五本松や八木節踊に至つては正しく玄人の域に達し、先生の白書日讃に曰く「恰度お伽噺の桃太郎じやないが氣は優しくて力持ち鬼退治も酒も踊りもやれなくちやネ……」傍にゐだ口惡屋が桃太郎の踊りは初耳だねと茶々を入れる、槇木先生「ウ波さんに聞いて見ろヨ」は少々苦しい言拔け

平町田町
赤心堂病院
電話四七五番

乘客を乘せて自動車正面衝突

平、湯本間の路上で

助手顏面に負傷

湯本町字天王崎鈴木自動車部運轉手田村郡夏井村生れ古市啓次（二〇）の運轉する乘合第百四十七號自動車を乘合自動車を運轉中町に向つて疾走中湯本町と内郷村境の堀坂下り急勾配に差掛つた際前方から上り勾配を乘客は各れも無事であつた

健康第一
健康は胃腸から
木ノ下胃腸藥
クスリはホシ
星製藥株式會社
東京・大阪